

平成30年 一般質問 6月定例会

質問議員	質問順	質問番号	質問事項
市山昭義	1	1	漁業者の担い手対策について
片石鉄彦	2	1	高齢者の福祉政策について
		2	発電事業所等の誘致について
		3	今後の上ノ国高校への支援について
		4	文化財の保存整備と活用について

市山昭義 議員

質問1 漁業者の担い手対策について

近年の漁業の現状は、温暖化などの気候変動や磯焼け現象により、漁船漁業が壊滅的な状況となっており、水揚げは年々減少を続け、経営は逼迫した状況に追い込まれております。漁協と漁業者は公共機関などから支援を受け、育てる漁業に転換すべく鋭意努力を重ねている状況にあります。

しかしながら、漁業離職者が年々増加傾向にあり、漁業者は高齢化と人手不足により事業展開に支障をきたしております。

漁協や漁業者は、危機感を持ってその対策について協議を始めております。

これを放置することは、当町の漁業が壊滅的な状況に陥ることを意味するものと認識しており、解消を図るには若手漁業者の育成や支援と新たに漁業を目指す若者などの就労を促すなど、総合的な担い手対策が必要であると考えております。

漁協や漁業者が主体となって取り組んで行くことは言うまでもありませんが、町として漁業の担い手対策に対し、どのような対策を講じていくべきなのか、検討している内容や具体的な対策についてお伺いします。

答弁▼町長

漁業の現状につきましては、議員ご指摘のとおりであり、私もそのように認識しております。

将来にわたり水産物の安定供給を担う経営体の維持・育成を図ることや、基幹産業である漁業の発展に期待しながら様々な漁業振興対策を推し進めてまいりました。この間、急激に進む漁業者の高齢化、漁獲量と魚価の低迷、更には燃油の高止まりなど、減船と漁業従事者の減少に歯止めが掛からず、厳しい経営環境にある状況となっております。

このことから、収益性の高い操業体制の構築や育てる漁業の推進が急務であると考えております。また、人材の確保と育成が安心して持続的に漁業を営む要件として重要であると考えております。

これらの対策として、昨年12月にひやま漁業協同組合、檜山振興局、檜山管内6町が構成員となり、檜山管内漁業者担い手対策協議会が設立され、檜山管内の関係者が一体となってその対策を講じていくこととしております。また、去る6月6日に上ノ国町漁業担い手対策協議会を町主導のもと立ち上げ、漁業の新規就業と後継者育成を町内関係者が一丸となって取り組んでいくこととしております。

具体的には、漁業を志す方々を町の地域おこし協力隊として募集する方向で検討しております。採用された協力隊は漁業者に派遣し、漁業に従事することになります。これにより漁業者は人手不足を補うことができたり、廃業をされる場合には漁船、漁具を有償で譲ることや増養殖業の人手確保など収益確保につながるようになります。一方協力隊は、実際の漁業現場を経験することで、将来の漁業の担い手として円滑に漁業に就業することができることとなります。

このように、双方に有意義な仕組みを構築することで担い手の確保を図り、漁業の担い手対策を推し進めて参りたいと考えているところでございます。

片石鉄彦 議員

質問1 高齢者の福祉政策について

今日、本町の高齢者に係る問題は山積しております。低年金のため生活が苦しく、身体が悪くなくても老健施設に入れられない、免許証を返納したため足の確保ができない、地域で店やスタンドが閉店したため生活必需品が手に入れにくい、身寄りがいないため毎日が不安だ、などなどあります。
町長は高齢者がこの町に生まれて良かったと幸福を実感できる施策を実施したいと訴えておられました。執行方針には具体策が見えないが、これからどのようなプロセスで施策を行う考えか伺います。

答弁▼町長

本町の高齢者に係る問題は、議員ご指摘のとおり山積しております。
私は町長選挙期間中、各地区をまわり町民皆さんの声を聞きました。その中で、高齢者皆さんの不安の声を多く聞くことができました。これからどのようなプロセスで施策を行う考えかについてであります。まず、高齢者全員を対象とし、実態を把握するため、きめの細かいアンケートを実施いたします。
次に、アンケートの結果から問題点、抱えている不安を整理し施策を具体的に作り、緊急度を勘案し政策を展開してまいります。想定される課題としましては、日常生活における不便さの解消、深夜ハイヤーが営業されていない現状などから緊急時の足の確保、高齢者世帯・要援護者への支援などありますが、地域のネットワークの活用・地域ぐるみでということが大切になると考えております。
町政執行方針でも述べさせていただきましたが、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう社会参加や住宅生活への支援を行ってまいりますので、ご理解願います。

再質問

高齢者の中には書くことの苦手な人や、また心身に障害をきたして書けない方もおります。また、設問を理解できない方もあると思いますが、それには直接聞き取る方法等といろいろありますけれども、どんな方法で行うのか。そしてまた、そのアンケートはどれくらいの期間に行って、その結果、次年度にそれが反映されるのかどうかについて伺います。

答弁▼町長

これは私の政策として掲げたものですから、これから私も6月5日に就任してですね、まだ時間がないものですから、担当の方とはそんなに細かいですね打ち合わせしておりません。で、今回のなかで一番懸念されるのが、一人暮らしの老人等でありまして、高齢者等であります。で、特にそういう中でですね、やはりそのアンケートでも書くこと自体が相当な至難の業だと思っております。
そういう中では、まさしく実態調査的なですね聞き取り調査等もこれから検討していかなきゃならないと思っております。ただ、具体的なですね月数についてはこれからの作業になります。ですから、私たちはそのアンケートを進めること自体が目的でなく、あくまでもどのような施策をするかというひとつの手段でありますので、どこまでの部分でそのアンケートの内容を把握するか、どの項目によってその課題を実態的にできるか、我々が把握できるかどうかという中でですね、簡単なアンケートでなく、あくまでも結果をどのような形の中で対応するかというアンケートなものですから、そのアンケートについてもある程度の時間は必要だろうなと思っております。
ただ、いずれにいたしましても、先程も言いましたように、今、私は4期16年で農業、漁業、産業とですね、子育て支援、そして教育を重点的にやっております。そういう中で、やはり今の高齢者問題で今まで実施していなかったことでないんですけど、今、特に顕著にですね、これから高齢化が進んだ中で対応していかなくちゃならないということですね、できる限り、できる限り早い中でですね対応してまいりたいと、そう考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

再々質問

これからアンケートのいろいろ大変時間かかる仕事だと思いますけれども、今の考え方として、次年度に反映させたいという考え方でありますかどうか伺います。

答弁▼町長

あの一つですね例を申し上げたいと思います。今、ご承知のとおりですね議員の質問にもありました高齢者をですね、免許を返納してくださいということになります。免許は返納するのはいいんですけど、東京や札幌であると何かあるとすぐタクシーでもハイヤーでもきますけど、残念ながらですね、うちの町は今、ハイヤー会社が1社ありますけど、12時で終わります。そうすると6時までの間、空白期間です。で、何かこと、病人であると普通ですね救急車でいいわけではありますが、自分の身内に何かあってすぐ行かなくちゃならないとかですね、そういう中ではですね、簡単に言うと、小砂子から江差に行きたい場合どうする、神明から行きたい場合どうするとなるとですね、約25キロの中でですね、高齢者はまったく何もできないという現状があります。
ですから、私はこれから1番緊急の問題は、一つ例といたしまして、来年の中でもですね、このタクシーの関係、足の確保の問題について対応したいと。
ただ、そう言っても、それは単なるタクシーばかりでなくですね、上ノ国町の、今うちのほうではJRが廃止してバスが運行してますけど、上ノ国町としての交通体系をどのような形にするかと、その中の一つとしてタクシー部門だとかですねやっていかないと、なんとなくそのつぎはぎだらけの政策になるということありますので、まあ我々とすれば、ある有識者ですね、どっかの大学ですね先生方と協議してですね、上ノ国町の今の交通体系をどうするのかって、その部分で一つのセクションとしてこの高齢者対策をどうするかというですね、そういう中での施策を展開していきたいと思っておりますので、本当は1日も早くやりたいんですけど、ひょっとすると、そこ部分だけ先行する可能性ありますけど、そういう中でですね交通体系と踏まえた中で高齢者対策の中で進めていきたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

質問2	発電事業所等の誘致について
	<p>町長は執行方針でも大型風力発電所の誘致を積極的に図っておりますが、本町はますます高齢化率が高まり、人口減少し、税収も減少していく中で、安定的に税収を確保するため、是非ともそれらの事業の誘致をしていただきたいと思っております。</p> <p>そこで、その事業の誘致について、どのような進捗状況なのか、差し支えない範囲でお伺いいたします。</p> <p>また、その事業の誘致ができた場合の税収はどれ位になるのか。さらに、その事業によって町内経済への波及効果はどれ位になるのか、お伺いいたします。</p>
	答弁▼町長
	<p>平成26年に民間事業者が風車12基、出力2万8,000キロワットの風力発電所を建設し運転を開始したところ、その設備利用率が全国トップクラスであったことから、同事業者は新たな風力発電事業の計画を本町に提案し協力の要請がありましたので、私も町内経済へのプラス効果を期待して協力することとしました。</p> <p>この計画は、平成34年までに最大で風車28基、出力約12万キロワットの風力発電所を建設するものであり、事業に必要な環境影響評価準備書の縦覧を現在実施しているところであります。また、この説明会を来る6月19日上ノ国町総合福祉センターで開催することとなっております。なお、同計画のうち出力4万キロワットについては、既に北海道電力の買い取りが決定していることから、平成33年までに風車10基、出力4万キロワットの風力発電所の建設を行うこととなっております。事業者からの報告によりますと、風車等を設置する用地の確保はほぼ協議が整い、来年から建設工事に着手する予定とのこととあります。</p> <p>前回の風力発電所の建設では、本町の建設会社が下請会社として参加し、また町内の旅館業者には多くの工事関係者が宿泊していたことから、今回の工事においても同様な状況が見込まれますので、町内経済に多大な効果をもたらすものと期待しております。また、現在運転している風力発電施設では、17年間で約6億3,600万円の税収が見込まれており、計画されている風力発電施設の事業費が不明なことから、これに伴う税収は算定することができませんが、それ相当な税収を見込めるものと推測されます。</p> <p>同事業者からは、今回の計画のほか洋上式風力発電所の建設計画の提案もいただいておりますことから、私といたしましては今後とも大型風力発電の建設に対して推進する立場で協力してまいりたいと存じます。</p>
	再質問
	<p>風力発電所の建設は順調にしていることには大変いいんですが、後段で町長言われました洋上式の風力発電所について、選挙期間中も若干話がありましたけど、それについて差し支えない範囲で進捗状況を伺いたいと思っておりますけど、いかがでしょうか。</p>
	答弁▼総務課長
	<p>洋上風力については、今、国の方でこれを推進する法律を提案している最中です。まだ国の方では国会審議の中で可決されていない状況ですが、それが推進された場合は国の方ではモデル地域を5つ以上指定して、洋上風力を推進したいという考え方ですので、これに上ノ国町も是非参加できたらという考え方で今検討しております。民間業者の方からは、この参画について上ノ国町と協力していきたいという声をいただいておりますけれど、まだ具体的な内容についてははっきりしておりませんので、今のところはそのような状況であります。</p>

質問3	今後の上ノ国高校への支援について
	<p>昭和57年の開校以来、地域の将来を担う優秀な人材を多数輩出し、また地元にある高校として、町民から親しみと多くの期待が寄せられてきております。</p> <p>しかし、近年の急激な少子化により、1学年2学級が1学級に減り、さらにここ数年の入学者数を見ると、欠員が多く出ている状況にあります。</p> <p>本町において、今後さらに急激な人口減少と過疎化が進むと予想されます。</p> <p>本町の未来を担う子どもたちを育てるためにも、上ノ国高校に対しさらなる支援を行う必要があると思うが、いかがか。また、存続の選択肢として、町立高校も考えられると思うが、いかがか伺います。</p>
	答弁▼教育長
	<p>現在、上ノ国高校への支援策として通学経費の助成や進学予備校とインターネットでつないだ受講、また資格取得検定料に対する助成や、海外研修派遣事業などの支援を行ってきております。</p> <p>その成果により、地元から上ノ国高校に進学する生徒の割合が半数を超えてきていると理解をしておりますが、今後も児童生徒数の減少はさらに進むと予想されます。</p> <p>こうした中、今年、北海道教育委員会から地域とつながる高校づくりを目的とした地域連携特例校の指定を受け、協力校からの出張授業のほか、道内の高校とインターネットでつないだ遠隔授業なども取り入れ、教育環境の充実を図っていくこととしたところであります。</p> <p>教育委員会としても、さらに地域とつながり魅力ある学校づくりに邁進する上ノ国高校と連携、協力しながら今後の支援策を考えていきたいと思っております。</p> <p>また、今後の中卒予定者数の状況から上ノ国高校が直ちに再編整備の対象にはならないと考えておりますが、上ノ国町の将来を担う人材を確保するためにも町立化も含めあらゆる選択肢を検討し、上ノ国高校を存続してまいりたいと考えます。</p>
	再質問
	<p>上ノ国高校へは通学経費の助成と海外研修の助成支援を行っておりますけれども、それ以外でどのような上高への支援を想定しているのか。例えば制度に対する支援なのか、例えば学校運営に対しての人的な支援なのか、経済的な支援なのか、今事務段階でも、そういう支援の方法について考えがありましたら、お伺いいたします。</p>
	答弁▼教育長
	<p>現在のところ進学経費、そして各種検定料とか様々な支援いたしております。</p> <p>それについては、まず一つ目が、1番重要なところは、まず上ノ国町の将来を担い手となる人材を通してこれから確保していくかということで、その辺についてまず第1として、そして第2については今後就職、進学するために、そのスキルを上げるためにもそういう各種検定料とかに対しても助成していておりますけれども、ますますこれから、1回目も答弁しましたけれども、人口減少がこれからますます予想される中で、どうやって上ノ国町の子供たちを残していくか、それがまず1番大事になるだろうと考えておまして、さらに上ノ国高校の進学率を上げる、地元の子供たちを上ノ国高校に行かせるってことをこれからも支援の中心にして考えていきたいと思っておりますが、具体的な支援策についてはこれから学校とも協議して考えてまいりたいと思っております。</p>
	再々質問
	<p>まだ町立化の議論は時期尚早でありますけれども、しかるべき時のために伺っておきますけれども、町立化にした場合に地方交付税でかなりの部分が手当されると伺っておりますけれども、例えば今、まだまだこの後になりますけれども、町立化した場合に町の財政負担でのはだいたいどれぐらいになるのかお伺いいたします。</p>
	答弁▼教育委員会事務局長
	<p>費用負担ということに対するお答えなんですが、今言われたとおり現在町ではまだその試算についてはしたことはないんですけども、収集した情報の中で、平成28年度に町立化になった道内の高校の方から少し情報をいただきましたので、そちらの方を参考として紹介したいと思います。</p> <p>学校の規模としましては、1学年が20人程度ということで、60人の全校生徒ということで、学校の方の交付税等も含めた歳入歳出を算定したところ、およそ年間運営経費として2,000万程度の負担が生じているというふう聞いております。</p> <p>運営経費の他に、学校の施設自体ですとか教員住宅なども補修や修繕ということが別にかかりますので、そうすると、もっと大きな金額でかかっていくというふうにと今現在考えております。</p>

質問4	文化財の保存整備と活用について
	<p>本年は北海道と命名されてから150年の記念の年ですが、その中でも本町は和人が最も早く住みつけた所と言われ、北海道夜明けの地として多くの文化財を有し、本町の地域づくりと観光産業の振興に貴重な地域資源として活用が望まれております。</p> <p>また今年、未調査であった洲崎館跡の基礎調査に着手すると聞いておりますが、勝山館跡、花沢館跡を含む上ノ国館跡の整備はどうなるのか。さらに現在老朽化した旧上ノ国中学校で行っている保存、管理、公開を、今後観光産業を推進する中でどのように考えているのか、お伺いいたします。</p>
	答弁▼教育長
	<p>文化財を核とした地域づくりと観光産業の振興についてであります。教育委員会では昨年度に文化財を教育・産業・観光分野に活用する「上ノ国町歴史文化基本構想」を策定し、当構想を今後の文化財行政のマスタープランに位置づけております。当構想では、現在の過疎化・少子高齢化における人口減少の進行により消滅の危機に瀕している文化財を継承し、さらに行政と民間団体が連携することで担い手を確保し、地域の文化、経済及び観光の振興の核として未来へ継承する方策を実践する計画となっております。</p> <p>また、史跡上之国館跡と旧上ノ国中学校の整備や公開・活用についてであります。教育委員会では今年度から2カ年で「史跡上之国館跡整備基本計画」の策定を行うこととなり、この中で今後の史跡上之国館跡の整備方針や旧上ノ国中学校の在り方について検討することとなっておりますので、ご理解をお願いします。</p>
	再質問
	<p>2カ年で史跡上之国館跡整備基本計画作るといっておりますけれども、それは理解できましたが、今まで何回も上ノ国中学校跡の問題は出されてるはずなんですけれども、教育委員会として今の整備センター、旧上ノ国中学校の整備センターという状況だと認識しているのかについて伺います。これからどれぐらいで建てるのか、そういう状況について認識を伺います。</p>
	答弁▼教育長
	<p>旧上ノ国中学校につきましては、建ててからもう50年以上経っておりますけれども、今の現状としてはちょっと強いやませなんか吹くと、屋根のトタンなんかはがれてその度に応急処置をしているという、そういう状況でありますし、中の方では発掘作業の分類ですから、いろいろ文化財等出土品もありますし、中で事務員も仕事しているわけですが、もちろん古い建物なので耐震計画がございませんし、しかるべきというか、早急にはどこかにというか、施設を変えたいなということで考えておりますけれども、それについても先程も答弁いたしましたけれども、これから計画する計画書でその辺についてもちょっと中身について検討してまいりたいなと思っております。</p>